

gaisen carte  
がいせん  
崖線

崖線のお散歩を、さらに  
もうちょっとだけ面白く  
するための「小ネタ」を  
集めてみました。



崖線見  
崖線見

# ア・ラ・カルト

## ！ 世田谷の崖線小話

●岡本3丁目の富士見坂は、  
車道では世田谷一の急坂である。



岡本の富士見坂は武蔵野台地の先端に位置し、国分寺崖線にある急な坂道で、富士山を眺めるには絶好の場所である。昔は馬車が登れなかったという勾配22%の急坂である。

●荒玉水道道路は、  
世田谷で一番長い直線道路である。

砧浄水場から杉並区の梅里付近まで、ほぼ9kmの直線の道路である。なぜ直線かというと、道路の下に太さ直径約1mの水道管が埋められているからである。

●ゴルフ橋の由来



大井町線の等々力駅近くの等々力溪谷の入口にある橋は、「ゴルフ橋」と呼ばれています。これは、昭和の初めに旧下野毛、等々力村に広大なゴルフ場があったことに由来します。

ゴルフ橋

## ！ 古い建物を見つけたら (近代建築の見分け方)

散歩中にふと出会う趣のある建築。崖線沿いにも多く現存する近代建築は、こんなところに着目すると面白い。

●波打った窓ガラス

外から眺めて窓ガラスが波打っているようなら昭和30年代以前の建物である可能性が高い。大量生産で作られる現在のガラスとはまた違った趣。瀬田四丁目旧小坂緑地の旧小坂家住宅でも見ることができる。



●個性が光る「換気口」

もともと天井裏の空気調整のために設けられていた「換気口」はデザインもいろいろで、見比べるとおもしろい。意匠として飾りだけつけられているものもある。

●門柱や外構に大谷石

古くからあるお屋敷の門柱や外構には大谷石が使われていることが多い。ちなみに、おもいはせの路のサインにも街並みに合わせ大谷石が使われている。



## ? 坂の名前から知る崖線

●行火坂の由来はなに？

勾配が急なため、この坂を登るだけで体が熱くなるので「行火坂」と呼んでいた。別名「行善寺坂」ともいい、当時はこの急な坂を下り、調布橋を渡り、二子の渡しに行ったそうだ。



●お茶屋坂の茶屋ってどんなの？

江戸時代の始め頃、この地を治めていた旗本喜多見重勝が眺めの良い坂の上に茶室を建てて、喜多見の里から多摩川や富士山の姿を楽しんだと言われている。

●不動坂の由来はなに？

成城から喜多見不動に降りる不動坂。由来はこの喜多見不動にちなんだもの。昔ながらの切り通しの面影がある。

●「寮の坂」の寮って何寮なの？

答は尼さんの寮。伝乗寺の尼さん達の住んでいた寮があったことから名付けられたそうである。

## ！ 崖線ならではの生きもの

豊かな自然環境そのままに、さまざまな動植物が共存する崖線は「生きものつながる世田谷プラン」に位置づけられており、次世代に引き継ぐことが大切。サワガニやゲンジボタル、イチリンソウやキンランなど、ちょっと目を凝らして散策すると、近頃の都会ではめずらしい生きものと出会える。

●ドングリとカブトムシ

世田谷の崖線上で見られるドングリは10種類ほど。ちなみにカブトムシの幼虫は、コナラやクヌギの落ち葉でできた腐葉土の下で育ち、初夏になると成虫となって樹液を吸う。足元にこんなドングリが落ちていたら、夏にはその周りでカブトムシと出会えるかも。



コナラのどんぐり



クヌギのどんぐり



カブトムシ

●オオタカ、オニヤンマ、ゲンジボタル



オオタカ



オニヤンマ



ゲンジボタル

## ！ 崖線沿いには古墳が多い

多摩川沿いの崖線沿いには野毛大塚古墳や上野毛稲荷塚古墳、御岳山古墳など多くの古墳が点在する。太古の昔から川が人々の暮らしと密接に関係していたことや権力者が眠る地として眺望のいい場所が好まれたことが関係していると考えられる。

ちなみに静嘉堂文庫も元々は旧三菱財閥・岩崎家の廟所(墓所)として買いもとめられたところ。

# omoihase route

崖線見



季節や時の流れとともに表情を変える古代から現代までの様々な顔が見える路です。歴史におもいをはせるといことから名付けられました。

マップの使い方  
この面を地図側に折り返すと、地図とあわせてルートを紹介がご覧いただけます。



九品仏浄真寺

三品九体のとても大きな阿彌陀仏を安置する三棟の仏堂があり、九品仏の俗称で有名です。旧奥沢城主、大平出羽守の城跡に建てられ、今でもその土塁が残されています。本尊、梵鐘、仁王門等の貴重な文化財が多く、広い境内には都の天然記念物に指定されているカヤやイチヨウの大きな木があります。

ぽかぽか広場

明治45年(1912)に創設された玉川浄水場。世田谷の近代的な水道設備による給水が開拓されたのは大正10年(1921)からで、玉川田園調布に建てられた住宅への供給が最初です。この広場は貯水場上部に作られました。

宇佐神社

多摩川に向かって坂道を降りる途中に、宇佐神社があります。本殿の裏には鎮守の森があり、八幡塚古墳がひっそりと佇んでいます。



伝乗寺

本堂には、柔和なお顔のお地藏様が安置されています。頭と身体で造られた年代が五百年も違うといわれ、昔から「大変なご苦労をなさったお地藏様」だと伝えられています。

御岳山古墳

5世紀後半から6世紀中頃の円墳で、かなり勢力のあった豪族のものといわれています。満願寺に保管されている7つの鈴のついた鏡「七鈴鏡」はここで見つけられました。

等々力溪谷



全長約1キロの等々力溪谷は、23区内唯一の溪谷です。谷間は木々に囲まれ、ひんやりとした風の吹き抜けて行く様は、まるで幽谷の趣を残しており、都指定名勝として文化財指定されています。途中には8世紀頃のものと言われる横穴古墳があります。さらに、等々力溪谷を川下へ降りて歩いて行くと、滝の音がとどろいてきます。いくつかある等々力の地名の由来のひとつ「不動の滝」です。等々力不動の本尊の不動明王は役の行者の作と言われ、色々な願い事にご利益があると言われています。

玉川野毛町公園(野毛大塚古墳)

公園の一角には、墳丘の全長82メートル、高さ約11メートルの帆立貝式としては全国最大級の前方後円墳があります。勾玉やガラス玉などが出土し、現在は国立博物館に所蔵されています。

おもいはせの路おすすめルート 6.7km

九品仏浄真寺 460m → 九品仏駅 670m → ぽかぽか広場 600m →

宇佐神社・伝乗寺 910m → 御岳山古墳 300m → 等々力溪谷

440m → 玉川野毛町公園 430m → 六所神社・善養寺 1300m →

上野毛自然公園 300m → 五島美術館 30m → 富士見橋 580m →

法徳寺 220m → 行善寺 620m → 二子玉川駅

六所神社(野毛)

丸子川から坂道をのぼると、左手石段の上に六所神社の大きな鳥居がみえます。旧野毛村に散在していた6つの寺社を合祀して、ひとつにまとめた神社です。そのため祭神は六柱それぞれの神様です。



善養寺

境内にある、都の天然記念物の指定をうけているカヤの大木は、見るものを圧倒せんばかりの迫力です。また、お寺には五拺竿なるものが寺宝として祀られています。お香で心身を清めた者が、この五拺竿に額をつけると、ご利益を授かると言われています。

上野毛自然公園

国分寺崖線の林をそのまま公園にした、土の匂いと木の香りがいっぱいの自然一色の公園です。木々の間を縫うように地面より高い位置に階段が設けられていて、園内の散策の便をはかっています。階段をのぼりきった高台には桜があり、春には一面が淡いピンクに染まります。



五島美術館

平安様式に造られた美術館には、多くの古美術が展示されています。庭は手入れの行き届いた日本庭園と自然を残した斜面とから成り、20数種の石灯籠や様々な表情をした野仏、六地藏が置かれています。

富士見橋(上野毛)

五島美術館わきの切通しを走る東急大井町線にかかる富士見橋。ここからの景色は絶景で、美しい地域づくりの推進を目的とした国土交通省の「関東の富士見百景」に選定されています。

法徳寺

本堂右の筆塚に「明治十四年五月半嶺開書」とした碑がたっています。幕末から明治初期にかけて法徳寺に寺子屋を開き農村子女の教育に献身した大塚貞三郎を讃えたものです。

行善寺

行善寺はその昔、玉川八景の眺望場所として多くの人々の訪れるところでした。二子の鮎漁とならんで、瀬田に行善寺ありと江戸市中に広く知られたようです。將軍もしばしば立ち寄り休息したといわれています。いまでも、朝夕に赤く染まった風景は、まだまだ一見の価値があります。



九品仏浄真寺から二子玉川駅までのコースです。左の写真のような道標や路面のサインがあります。地図の◆マークを参考に歩いてください。